

和紙



おりおりの記

「国際金融都市OSAKA」を目指して

岩井コスモ証券
代表取締役会長CEO

沖津 嘉昭

ここ大阪の地には「やってみなはれ！」という言葉がある。

大阪人はこの精神をフルに発揮し、江戸享保の時代に、堂島の一角に「堂島米会所」を創設。これは、「世界初の整備された先物取引市場」となった。

最近、こうした進取の気概で、大阪が何年か後に花を咲かせようと努力を始めた「一大テーマ」がある。

「国際金融都市OSAKA」の実現に向けた構想である。

ニューヨーク、ロンドンなど一流都市には、国際金融都市としての側面を整えているケースが数多くみられる。日本政府も国際金融都市の育成を図るべく、これまで諸外国と比べて不利とされてきた税制改革に力を注ぐなど積極姿勢を打ち出した。これに応じる形で大阪府・市も国際金融都市としての地位を確保すべくその第一歩を踏み出した。

しかし、上海が国際金融都市（国際金融都市ランク4位）としての今日の地位を築く迄に30年の歳月を要したように、大阪もその地位を得るまでには並々ならぬ努力が必要になる（現在ランク34位）（東京5位）。

まずは海外の運用会社の誘致が肝要。香港に政

治的な変化が訪れた昨今、香港の運用会社へ秋波を送るのも絶好のタイミングだ。しかし、運用会社のファンドマネージャーの家族、子弟へ

の英語環境の整備や、サービスアパートメントなどの充実、更に、多くの外国従業員が大阪で運用業務に携わりたいと思うような街作りも必要になるなど、課題は山積。しかし、幸い、大阪では、2025年に「大阪・関西万博」が開催される。IR構想も存在する。これを機会に、「大阪に住みたくなる楽しい街づくり」に猪突猛進してはどうだろうか。近隣の京都、神戸、奈良などの観光都市とタッグを組めば、一層外国人にとって大阪に住居を構えたいかなろう。こうしていつの間にかこの大阪はファンドマネージャーなどの国際金融マンが住みつく街に変貌。そして東大阪市の町工場地域にはIT起業家が集結。次々とIPOが行われ日本のシリコンバレーが誕生ということに。

間もなく訪れるお正月の夜には、こんな筋書きの「初夢」を見たい。

